

50万人以上を除き、3、4か月児健診に比べて集団で行う割合が高かった。個別委託は1万人未満0.7%、1～30万人未満約1～9%であったが、30万人以上になると約12～20%と増加した。

3歳児健診を集団で行う割合は、50万人未満までは約94～99%であるが、50万人以上では90.0%と減少し、個別委託が増加した。

以上の結果から、3、4か月児健診は、1歳6か月児健診、3歳児健診に比べ、集団で行う割合が少ないこと、50万人以上では、人口の少ないところよりも、1歳6か月児健診、3歳児健診を個別委託する割合が多いことが明らかにされた。

3. 乳幼児健診に従事する専門スタッフ

3、4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診に従事する医師、保健師以外の専門スタッフは、人口規模による影響は受けていなかった。そこで、各健診に従事する専門スタッフを、人口規模別ではなく職種別に表4に示す。全ての健診において、栄養士は約89～91%従事していた。これは、看護師の約80～82%、心理士の約6～44%、歯科衛生士の32.3%と比較しても多かった。

4. 乳幼児健診の内容

3、4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の内容を栄養士の健診への参加の有無別に表5に示す。全ての健診において、栄養士の参加の有無に関わらず行われていた内容は、多い順に、「問診」約98%、「個別保健相談」約97%、「小児科診察」約95%、「栄養相談（食育を含む）」約90%であった。このうち、栄養士の参加の有無で、実施率が大きく異なったものは、「栄養相談（食育を含む）」であった。その実施率をみると、3、4か月児健診では、栄養士不参加は43.6%が、参加では94.5%と約2.2倍に、1歳6か月健診では、不参加は30.3%が、参加では98.3%と約3.2倍に、3歳児健診では、不参加は30.0%が、参加では96.0%と3.2倍になった。

「グループワーク」は全ての健診において実施率は約1～4%と低いものの、栄養士の参加により、実施率は約2～3倍に増加した。

5. 乳幼児健診の重点目標

3、4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の重点目標を栄養士の健診への参加の有無別に表6に示す。全ての健診において、栄養士の参加の有無に関わらず、重点目標として1番目と2番目に多くあげられているのは、「育児不安の発見と軽減」約94～99%、「疾病の早期発見」約90～94%であった。3番目以降の重点目標は、各健診により若干異なっていた。3、4か月児健診の3番目以降は、「虐待の早期発見」84.8%、「発達の評価」81.9%、「栄養指導（食育を含む）」80.4%、「予防接種指導」77.7%であった。1歳6か月児健診の3番目以降は、「歯科保健」86.4%、「虐待の早期発見」86.2%、「発達の評価」85.6%、「栄養指導（食育を含む）」77.8%であった。3歳児健診の3番目以降は、「発達の評価」85.5%、「虐待の早期発見」83.7%、「歯科保健」83.0%、「栄養指導（食育を含む）」75.5%であった。このうち、栄養士の参加の有無で、実施率が大きく異なったものは、「栄養指導（食育を含む）」であり、栄養士の参加により3、4か月児健診では、約1.9倍、1歳6か月児健診では約2.3倍、3歳児健診では約2.6倍、栄養士不参加に比べて実施率が高かった。その他の項目では、栄養士の参加の有無で差はほとんどみられなかった。

6. 食育の視点を加えた生活指導、栄養指導

1歳6か月児健診、3歳児健診における食育の視点を加えた生活指導や栄養指導の実施の有無を表7に示す。1歳6か月児健診は85.9%、3歳児健診は86.4%の市町村において、食育の視点を加えた生活指導や栄養指導を実施していた。担当者が栄養士であるのは、1歳6か月児健診では92.5%、3歳児健診では92.0%であり、保健師は1歳6か月児健診では7.2%、3歳児健診では7.1%であった。

食育の視点を加えた生活指導や栄養指導を実施しているのか「わからない」、としたのは、1歳6か月児健診で4.5%、3歳児健診では4.2%であった。食育の視点を加えた生活指導や栄養指導を「実施していない」、としたのは、1歳6か月児健診で8.3%、3歳児健診では7.4%であった。

7. 経過観察健診

経過観察健診の実施の有無、およびその担当者を表 8 に示す。経過観察健診を実施していたのは、全体の 33.4%であった。経過観察健診にかかわる専門家は、多い順に、保健師 87.8%、小児科医師 76.3%、栄養士 58.5%、心理士 37.6%、その他の専門医 37.0%であった。

8. その他に実施している健診に関わる職種

その他に実施している健診に関わる職種を、健診の方法別、回数別に表 9 に示す。医師は集団で行う健診よりも委託して行う健診に関わる割合が高かった。しかし、それ以外の職種は委託して行う健診には、ほとんど関わっていなかった。集団で行う健診に関わる職種は、1 回目から 5 回目までを通して多い順番に、保健師、その他の職種、栄養士、医師、心理士であった。その他に実施している健診について、栄養士の関わりは約 7 割であり、3、4 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診の関わりが約 9 割 (表 4) であることと比較すると低かった。

D. 考察

平成 17 年 4 月から施行された次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画の中には「食育の推進」という柱が立てられている。また、「健やか親子 21」や「子ども・子育て応援プラン」などに盛り込まれた個別の施策に関する平成 17 年度の取り組み状況の結果²⁾からも、食育の推進を行政が積極的に行っていく姿勢がとられている。このような状況を踏まえ、本研究においては、乳幼児健診を食育、栄養教育の場として有効活用する方策の基礎的資料を得るために、全国規模のアンケート調査を行い、現在、市町村で実施されている乳幼児健診における食育、栄養教育の現状を、栄養士の関与に焦点を当てて分析した。その結果、栄養士は 3、4 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診において約 9 割、その他に実施している健診には約 7 割に参加していることが明らかにされ、栄養士は乳幼児健診で、重要な専門職の一員として関与していることが示された。

食生活や栄養についての指導や相談は、人口規

模により実施形態が変化した。人口が 5 万人を超えると指導や相談を個人に実施する割合が減少し、必要性の認められるケースに実施したり、希望者に実施する形態が増加した。これは、人口が多くなると、受診者全員を個別に行うことが困難になり、集団での指導や相談が増える。しかし、本当に指導や相談を必要としている者にとっては、集団での指導や相談では、心配事の解決に至らなかったり、指導が徹底しないことも多い。そこで、必要性の認められるケースに実施したり、希望者に実施している形態をとる市町村が多くなるためであると考えられる。ここで、必要性の認められるケースと同じ位の割合で希望者に実施している市町村が多いことは、注目に値する。即ち、必要性の認められるケースだけであれば、あるスクリーニング基準で、必要性が認められないと判断されると、その者は指導や相談の機会を失ってしまう。しかし、希望者にも実施されていれば、スクリーニング基準で漏れても、自ら求めて、指導や相談を受けることができる。これはまた、食生活や栄養についての不安の解消や知識・技術の修得だけでなく、個別に栄養士と対話することで、育児不安の解消にも役立つと考える。

先行研究により、集団指導が行われる母親学級において、その運営にあたる保健師や栄養士の 26.3%は、「受講者間で食生活の意識・知識の差が大きく、講習のレベルの設定に苦勞する」と回答し、22.9%は「講習中、受講者の興味・関心の維持が困難」と回答していることが報告されている³⁾。本調査対象の市町村においても、集団における指導の困難さや効率の悪さを感じており、住民のニーズに応えた個人対象の母子保健サービスの提供に努めている姿勢がうかがわれる。

なお、必要性の認められるケースに実施する場合、どのようなスクリーニング基準でケースを選定しているのか、今後検討の必要がある。また、希望者に実施、と回答したところは、受診者全員、あるいは必要性のあるケースに実施と重複していれば問題はないが、希望者に限定して実施する場合は、問題のあるケースを把握できない可能性が考えられる。そこで、別の方法による指導や相談の機会の設定が望まれる。

本研究において、食生活や栄養についての指

導や相談の主な担当者が、栄養士である市町村は約90%であるが、残りは保健師やその他の職種が担当していることが明らかにされた。先行研究によると、乳幼児健診時の栄養士と他の職種による栄養指導において、母親の満足度、および有効性の評価に差がなかったり⁴⁾、指導の実行状況に明確な違いはみられなかった⁵⁾という結果が得られている。栄養士による指導と、他職種による指導の違いが母親の評価に現れないことは、母親側からみて、栄養士の専門性が不明確であるかもしれないことが指摘されている⁵⁾。この結果に象徴されるように、現在、栄養、食生活が大切であるという意識を多くの人々がもつ中で、「栄養士が必要である」という議論に進展しないことが危惧される。栄養士の専門性が母親や他職種に明確にされなければ、栄養士の仕事は他職種に取って代わられる可能性もある。栄養士は栄養の専門家として、さらなる自己研鑽や、教育・研修体制の強化が必要であると考ええる。

食生活や栄養についての指導や相談は、栄養士の担当が約90%であるが、市町村保健センターへの栄養士の配置率は約60%であることから、雇い上げ栄養士に食生活や栄養についての指導をかなりの部分依存している状況が推察される。雇い上げ栄養士と乳幼児健診に携わる他のスタッフとの連携は十分か、乳幼児健診終了後の専門職種間の情報交換の場に、栄養士も入っているのか、また、雇い上げ栄養士に対する研修は実施されているのかなどについては今後検討の必要がある。

食生活や利用についての指導や相談を実施している市町村のうち、食育の視点を加えているのは、約86%であった。また、3～4か月児健診、1.6歳児健診、3歳児健診のいずれの場合にも約76～80%の市町村で、食育を含む栄養相談、栄養指導が実施され、また、それは乳幼児健診の重点目標にもあげられていることが明らかにされた。しかし、本調査結果からは、その内容について明らかにすることはできなかった。そこで、今後の調査でそれらを把握すると共に、乳幼児健診という極めて受診率の高い健診の場を最大限に活用する、発育・発達状況に合わせた適切な食育、栄養教育のあり方を検討する必要があると考ええる。

1.6か月児健診、3歳児健診のいずれも、食育は約90%が栄養士により、また、約8%が保健師により担当されていた。栄養士による食育、保健師による食育は、両者の専門性の違いから、視点が異なることが予想される。今後は、専門性の違いによる食育の捉え方の特徴を明らかにし、それを活かして、両者が相補的に連携しながら食育を推進していくことが望まれる。また、母親の考える食育のめざすものと、その食育を進める上で母親が必要とする情報は異なることも考えられることから、市町村において実施されている食育が、地域住民のニーズに合致したものであるかについての検討も必要であると考ええる。

E. 結論

本年度の分担研究は「乳幼児健診システムに関する全国調査」において、乳幼児健康診査における栄養士の関与に焦点をあてて、食育、栄養教育の実態把握を試みた。その結果、約9割の市町村においては、乳幼児健診に栄養士が関わっていることが明らかにされ、栄養士は乳幼児健診で、重要な専門職の一員として関与していることが示された。食生活や栄養についての指導や相談は、人口規模により実施形態が変化した。人口が5万人を超えると指導や相談を個人に実施する割合が減少し、必要性の認められるケースに実施したり、希望者に実施する形態が増加した。食生活や栄養についての指導や相談の主な担当者が、栄養士である市町村は約90%であるが、残りは保健師やその他の職種が担当していることが明らかにされた。食生活や栄養についての指導や相談を実施している市町村のうち、食育の視点を加えているのは約86%であった。しかし、今回のアンケート調査では、食育の内容を把握することはできなかった。3、4か月児健診、1.6歳児健診、3歳児健診のいずれの場合にも、約76～80%の市町村で、食育を含む栄養相談、栄養指導が実施され、また、それは乳幼児健診の重点目標にもあげられていることが明らかにされた。今後の調査研究においては、乳幼児健診時における発育・発達状況に合わせた適切な食育、栄養教育のあり方を、具体的に検討する必要があると考ええる。

F. 参考文献

1. 国民栄養の現状（平成 11 年国民栄養調査結果）、49、健康・栄養情報研究会、第一出版、2001.
2. 地方自治体の取組状況、第 4 回「健やか親子 21」推進検討会、厚生労働省、参考資料 5、13 - 17、2005.
3. 堤ちはる、高野陽、水野清子、竹内恵子、三橋扶佐子：母親学級における栄養教育に関する研究、日本子ども家庭総合研究所紀要、第 39 集（平成 14 年度）、185 - 195、2003.
4. 光山玲子、梶本雅俊、高野陽：乳幼児健康診査時における栄養指導の評価、小児保健研究、46 巻、4 号、400 - 405、1987.
5. 染谷理絵、水野清子、鍵孝江、他 10 名：離乳に関する情報入手と離乳の実態との関連性、栄養学雑誌、52 巻、6 号、335 - 344、1994.

表1 食生活や栄養についての指導や相談の実施状況、担当者、食育の視点

	1万未満 (277市町村)	1万～5万未満 (435市町村)	5万～10万未満 (154市町村)	10万～20万未満 (107市町村)	20万～30万未満 (34市町村)	30万～50万未満 (33市町村)	50万以上 (20市町村)	無記入 (1市町村)	合計 (1081市町村)
	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)
食生活や栄養についての指導や相談の実施									
受診者全員(集団)に実施	84 (30.3)	232 (53.3)	78 (50.6)	59 (55.1)	17 (50.0)	17 (51.5)	12 (60.0)	1 (100.0)	500 (47.1)
受診者全員(個人)に実施	174 (62.8)	209 (48.0)	35 (22.7)	15 (14.0)	6 (17.6)	6 (18.2)	4 (20.0)	0 (0.0)	449 (42.3)
必要性の認められるケースに実施	87 (31.4)	222 (51.0)	115 (74.7)	89 (83.2)	26 (76.5)	25 (75.8)	15 (75.0)	1 (100.0)	580 (54.7)
希望者に実施	59 (21.3)	164 (37.7)	102 (66.2)	76 (71.0)	24 (70.6)	22 (66.7)	10 (50.0)	1 (100.0)	458 (43.2)
まったく実施していない	1 (0.4)	3 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.4)
主な担当者									
保健師	29 (10.5)	32 (7.4)	10 (6.5)	8 (7.5)	4 (11.8)	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	84 (7.9)
栄養士	244 (88.1)	393 (90.3)	140 (90.9)	99 (92.5)	30 (88.2)	32 (97.0)	18 (90.0)	1 (100.0)	957 (90.2)
その他	1 (0.4)	5 (1.1)	2 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (0.8)
「食育」の視点を加えている	214 (77.3)	382 (87.8)	137 (89.0)	95 (88.8)	34 (100.0)	29 (87.9)	18 (90.0)	1 (100.0)	910 (85.8)

表2 乳幼児健診時の専門職種間の連携

	1万未満 (277市町村)	1万～5万未満 (435市町村)	5万～10万未満 (154市町村)	10万～20万未満 (107市町村)	20万～30万未満 (34市町村)	30万～50万未満 (33市町村)	50万以上 (20市町村)	無記入 (1市町村)	合計 (1081市町村)
	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)	数 (%)
保健師が各専門職間を調整して回っている	119 (43.0)	189 (43.4)	74 (48.1)	46 (43.0)	16 (47.1)	16 (48.5)	9 (45.0)	1 (100.0)	470 (44.3)
その都度、それぞれの専門性の中で解決するようにし、とくに調整はしていない	11 (4.0)	12 (2.8)	10 (6.5)	10 (9.3)	1 (2.9)	3 (9.1)	2 (10.0)	0 (0.0)	49 (4.6)
健診終了後、担当した専門職種(医師、歯科医師、保健師、心理士、栄養士など)が集まり、カンファレンスを開き、情報交換をしている	225 (81.2)	382 (87.8)	132 (85.7)	94 (87.9)	29 (85.3)	30 (90.9)	18 (90.0)	1 (100.0)	911 (85.9)
その他	5 (1.8)	19 (4.4)	9 (5.8)	7 (6.5)	5 (14.7)	2 (6.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	47 (4.4)

表3 乳幼児健診の実施方法

	1万未満		1万～5万未満		5万～10万未満		10万～20万未満		20万～30万未満		30万～50万未満		50万以上		無記入		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)
3、4か月児健診																		
集団	254	(92.0)	375	(87.6)	128	(84.2)	79	(75.2)	22	(66.7)	20	(62.5)	15	(78.9)	1	(100.0)	894	(85.5)
個別委託	21	(7.6)	46	(10.7)	24	(15.8)	26	(24.8)	10	(30.3)	12	(37.5)	4	(21.1)	0	(0.0)	143	(13.7)
その他	1	(0.4)	7	(1.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(3.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	9	(0.9)
合計	276	(100.0)	428	(100.0)	152	(100.0)	105	(100.0)	33	(100.0)	32	(100.0)	19	(100.0)	1	(100.0)	1046	(100.0)
1歳6か月児健診																		
集団	269	(99.3)	425	(99.1)	148	(96.7)	95	(88.8)	30	(88.2)	29	(87.9)	14	(70.0)	1	(100.0)	1011	(96.5)
個別委託	2	(0.7)	4	(0.9)	5	(3.3)	10	(9.3)	1	(2.9)	4	(12.1)	4	(20.0)	0	(0.0)	30	(2.9)
その他	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(1.9)	3	(8.8)	0	(0.0)	2	(10.0)	0	(0.0)	7	(0.7)
合計	271	(100.0)	429	(100.0)	153	(100.0)	107	(100.0)	34	(100.0)	33	(100.0)	20	(100.0)	1	(100.0)	1048	(100.0)
3歳児健診																		
集団	272	(98.2)	432	(99.3)	153	(99.4)	103	(96.3)	32	(94.1)	32	(97.0)	18	(90.0)	1	(100.0)	1043	(98.3)
個別委託	2	(0.7)	2	(0.5)	1	(0.6)	4	(3.7)	1	(2.9)	1	(3.0)	2	(10.0)	0	(0.0)	13	(1.2)
無記入	2	(0.7)	1	(0.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(0.4)
その他	1	(0.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.1)
合計	277	(100.0)	435	(100.0)	154	(100.0)	107	(100.0)	34	(100.0)	33	(100.0)	20	(100.0)	1	(100.0)	1061	(100.0)

表4 乳幼児健診に従事する専門スタッフ（医師、保健師以外）

	3、4か月児健診 (894市町村)		1歳6か月児健診 (1011市町村)		3歳児健診 (1043市町村)	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
栄養士	816	(91.3)	902	(89.2)	933	(89.5)
保育士	121	(13.5)	312	(30.9)	314	(30.1)
心理士	54	(6.0)	409	(40.5)	462	(44.3)
精神科医師	0	(0.0)	2	(0.2)	2	(0.2)
看護師	716	(80.1)	808	(79.9)	850	(81.5)
助産師	189	(21.1)	139	(13.7)	133	(12.8)
歯科衛生士	289	(32.3)	-	-	-	-
その他	147	(16.4)	340	(33.6)	400	(38.4)

表5 乳幼児健診の内容

	3、4か月児健診				1歳6か月児健診				3歳児健診			
	栄養士		合計(%)		栄養士		合計(%)		栄養士		合計(%)	
	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)
問診	806 (98.8)	72 (92.3)	878 (98.2)	886 (98.2)	106 (97.2)	992 (98.1)	917 (98.3)	107 (97.3)	1024 (98.2)			
小児科診察	789 (96.7)	71 (91.0)	860 (96.2)	859 (95.2)	99 (90.8)	958 (94.8)	891 (95.5)	101 (91.8)	992 (95.1)			
集団指導	423 (51.8)	34 (43.6)	457 (51.1)	333 (36.9)	39 (35.8)	372 (36.8)	342 (36.7)	42 (38.2)	384 (36.8)			
個別保健相談	796 (97.5)	73 (93.6)	869 (97.2)	879 (97.5)	103 (94.5)	982 (97.1)	908 (97.3)	105 (95.5)	1013 (97.1)			
心理相談 (全員)	7 (0.9)	2 (2.6)	9 (1.0)	36 (4.0)	3 (2.8)	39 (3.9)	36 (3.9)	6 (5.5)	42 (4.0)			
心理相談 (必要なケース)	88 (10.8)	7 (9.0)	95 (10.6)	425 (47.1)	41 (37.6)	466 (46.1)	485 (52.0)	51 (46.4)	536 (51.4)			
栄養相談 (食育を含む)	771 (94.5)	34 (43.6)	805 (90.0)	887 (98.3)	33 (30.3)	920 (91.0)	896 (96.0)	33 (30.0)	929 (89.1)			
必要に応じて精神科医師の面談	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)			
助産師による母乳相談	99 (12.1)	12 (15.4)	111 (12.4)	-	-	-	-	-	-			
グループワーク	36 (4.4)	2 (2.6)	38 (4.3)	26 (2.9)	1 (0.9)	27 (2.7)	24 (2.6)	1 (0.9)	25 (2.4)			
その他	234 (28.7)	13 (16.7)	247 (27.6)	208 (23.1)	18 (16.5)	226 (22.4)	243 (26.0)	19 (17.3)	262 (25.1)			

表6 乳幼児健診の重点目標

	3、4か月児健診				1歳6か月児健診				3歳児健診			
	栄養士		合計(%)		栄養士		合計(%)		栄養士		合計(%)	
	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)	参加(%)	不参加(%)
疾病の早期発見	765 (93.8)	72 (92.3)	837 (93.6)	831 (92.1)	95 (87.2)	926 (91.6)	843 (90.4)	94 (85.5)	937 (89.8)			
育児不安の発見と軽減	809 (99.1)	78 (100.0)	887 (99.2)	879 (97.5)	105 (96.3)	984 (97.3)	873 (93.6)	104 (94.5)	977 (93.7)			
虐待の早期発見	694 (85.0)	64 (82.1)	758 (84.8)	776 (86.0)	95 (87.2)	871 (86.2)	783 (83.9)	90 (81.8)	873 (83.7)			
親同士の交流	388 (47.5)	42 (53.8)	430 (48.1)	288 (31.9)	39 (35.8)	327 (32.3)	250 (26.8)	29 (26.4)	279 (26.7)			
健康教育	271 (33.2)	22 (28.2)	293 (32.8)	260 (28.8)	27 (24.8)	287 (28.4)	253 (27.1)	27 (24.5)	280 (26.8)			
発達の評価	675 (82.7)	57 (73.1)	732 (81.9)	776 (86.0)	89 (81.7)	865 (85.6)	795 (85.2)	97 (88.2)	892 (85.5)			
栄養指導 (食育を含む)	685 (83.9)	34 (43.6)	719 (80.4)	747 (82.8)	40 (36.7)	787 (77.8)	753 (80.7)	34 (30.9)	787 (75.5)			
予防接種指導	641 (78.6)	54 (69.2)	695 (77.7)	678 (75.2)	78 (71.6)	756 (74.8)	668 (71.6)	71 (64.5)	739 (70.9)			
歯科保健	294 (36.0)	18 (23.1)	312 (34.9)	784 (86.9)	89 (81.7)	873 (86.4)	784 (84.0)	82 (74.5)	866 (83.0)			
グループ活動への参加勧奨	-	-	-	200 (22.2)	23 (21.1)	223 (22.1)	170 (18.2)	20 (18.2)	190 (18.2)			
発達障害の早期発見	-	-	-	785 (87.0)	85 (78.0)	870 (86.1)	811 (86.9)	95 (86.4)	906 (86.9)			
親子の関係性の評価	354 (43.4)	30 (38.5)	384 (43.0)	424 (47.0)	59 (54.1)	483 (47.8)	456 (48.9)	57 (51.8)	513 (49.2)			
父親の育児への参加	163 (20.0)	11 (14.1)	174 (19.5)	144 (16.0)	13 (11.9)	157 (15.5)	140 (15.0)	16 (14.5)	156 (15.0)			

表7 食育の視点を加えた生活指導、栄養指導

指導の有無	担当	1歳6か月児健診 数 (%)	3歳児健診 市町村数 (%)
有り		911	917
	栄養士	843 (92.5)	844 (92.0)
	保険師	66 (7.2)	65 (7.1)
	その他	2 (0.2)	2 (0.2)
	無記入	0 (0.0)	6 (0.7)
わからない		48	45
無し		89	79
無記入		13	20

表8 経過観察健診

実施の有無	担当	数 (%)
有り		354
	小児科医師	270 (76.3)
	保健師	311 (87.9)
	心理士	133 (37.6)
	栄養士	207 (58.5)
	その他の専門医	54 (15.3)
	その他	131 (37.0)
無し		694
無記入		13

表9 その他に実施している健診に関わる職種

	集団		委託		未記入		集団・委託合計	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
医師								
1回目	277	(72.3)	109	(77.9)	0	(0.0)	386	(73.8)
2回目	117	(62.9)	61	(70.9)	1	(0.1)	179	(65.8)
3回目	55	(64.0)	12	(70.6)	0	(0.0)	67	(65.0)
4回目	15	(65.2)	8	(100.0)	0	(0.0)	23	(74.2)
5回目	4	(57.1)	2	(66.7)	1	(0.1)	7	(70.0)
保健師								
1回目	370	(96.6)	0	(0.0)	1	(0.2)	371	(70.9)
2回目	176	(94.6)	1	(1.2)	1	(0.1)	178	(65.4)
3回目	80	(93.0)	1	(5.9)	1	(0.1)	82	(79.6)
4回目	23	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	23	(74.2)
5回目	7	(100.0)	0	(0.0)	1	(0.1)	8	(80.0)
心理士								
1回目	31	(8.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	31	(5.9)
2回目	13	(7.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	13	(4.8)
3回目	12	(14.0)	1	(5.9)	0	(0.0)	13	(12.6)
4回目	3	(13.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(9.7)
5回目	2	(28.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(20.0)
栄養士								
1回目	313	(81.7)	1	(0.7)	1	(0.2)	315	(60.2)
2回目	140	(75.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	140	(51.5)
3回目	56	(65.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	56	(54.4)
4回目	18	(78.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	18	(58.1)
5回目	6	(85.7)	0	(0.0)	1	(0.1)	7	(70.0)
その他								
1回目	293	(76.5)	11	(7.9)	0	(0.0)	304	(58.1)
2回目	147	(79.0)	7	(8.1)	1	(0.1)	155	(57.0)
3回目	68	(79.1)	3	(17.6)	0	(0.0)	71	(68.9)
4回目	19	(82.6)	2	(25.0)	0	(0.0)	21	(67.7)
5回目	5	(71.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(50.0)

Ⅲ 資料編

(アンケート調査票)

Q6_7:食生活や栄養について、指導や相談を実施していますか(該当するものすべてに○)。

1. 受診者全員(集団)に実施
2. 受診者全員(個人)に実施
3. 必要性の認められるケースに実施
4. 希望者に実施
5. 実施していない

1~4を選択された方は、Q6_7_1 および Q6_7_2 にお答えください。

→Q6_7_1:主な担当者は誰ですか(該当するもの一つに○)。

1. 保健師
2. 栄養士
3. その他()

→Q6_7_2:「食育」の視点を加えていますか(該当するもの一つに○)。

1. はい
2. わからない
3. いいえ

Q6_8:健診時の専門職種間の連携についてお教えてください(該当するものすべてに○)。

1. 保健師が各専門職間を調整して回っている
2. その都度、それぞれの専門性の中で解決するようにし、とくに調整はしていない
3. 健診終了後、担当した専門職種(医師、歯科医師、保健師、心理士、栄養士など)が集まり、カンファレンスを開き、情報交換をしている
4. その他

Q6_8:4. その他の連携に関してのご意見や工夫をお聞かせください。

Q7:各健診の平成16年度の受診率についてお教えてください。

1. 3~4カ月児健診 ()%
2. 1歳6カ月児健診 ()%
3. 3歳児健診 ()%

Q8:未受診児のうち、未受診の理由が把握できたものの割合を教えてください。

1. 3~4カ月児健診 ()%(未受診児数に対する割合)
2. 1歳6カ月児健診 ()%(未受診児数に対する割合)
3. 3歳児健診 ()%(未受診児数に対する割合)

Q8_1:未受診児把握のためにどのような努力をしておられますか(該当するものすべてに○)。

1. 未受診児に電話をして、未受診の理由、発達、育児上の問題について確認する
2. 電話で連絡がとれなかった場合は他の手段は用いずに訪問する
3. 電話で連絡がとれなかった場合は手紙などの他の手段を用いて確認する
4. 電話や手紙などで確認がとれなかった場合には、最終手段として訪問する
5. 健診のお知らせやアンケートに、未受診の場合には返信をもらうようにしてある
6. 保育園と連携をとり、入園児の中の未受診児を把握している
7. その他()

Q8_2：未受診児の把握方法別にみると、それぞれ、およそどのくらいの把握率（未受診児全数に対する）でしょうか（該当する項目のみで結構です）。

健診/把握方法	1.電話	2.家庭訪問	3.手紙	5.通知の返信	6.その他
1. 3～4カ月児	%	%	%	%	%
2. 1歳6カ月児	%	%	%	%	%
3. 3歳児	%	%	%	%	%

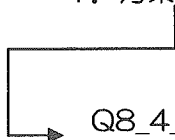
（各把握方法が重複する場合もありますが、そのまま延べ数で記載してください。）

Q8_3：未受診児の中に、虐待に至ったケースが含まれていましたか（該当するものに○）。

1. ある 2.今のところはない 3. 注意していない

Q8_4：「子ども・子育て応援プラン」で乳児健診未受診児など生後4か月までに全乳児の状況の把握がうたわれ、全市区町村で実施するとされています。貴市区町村では特別な方策をお持ちでしょうか（該当するものに○）。

1. 方策がある 2. 方策を検討中である 3. とくになし



Q8_4_1：「1. 方策がある」とお答えいただいた市区町村はその内容を簡単に結構ですので、以下に記入してください。あるいは、資料を添付していただいても結構です。

自由に記載をお願いします。

Q8_5：以下のような工夫はされていますか（該当するものすべてに○）。

1. 医療機関と連携をとり、低出生体重児を把握している
2. 市区町村の事業として低出生体重児を把握している
3. 広報により母子保健事業のお知らせや相談窓口を周知している
4. 転入・転出児は、転入・転出先の担当保健師と連絡をとっている
5. 在日外国人子弟について、その子育てや健康管理にとくに配慮している
6. 新生児の全数把握に努めている
7. 里帰り出産の把握に努めている（里帰りにより他地域で出産した住民）

出生から3～4カ月児健診まで

Q9：母子健康手帳の交付についてお訊ねします。

Q9_1：母子健康手帳の交付場所はどこでしょうか（該当するものすべてに○）。

1. 保健所
2. 保健センター
3. 役所・役場の担当窓口、役所・役場の出張所
4. その他（ ）

Q9_2：母子健康手帳交付の際の対応についてお教えてください（該当するもの一つに○）。

1. 事務的に手続きのみで交付する
2. 担当窓口の事務職員が一定の説明をして交付する
3. 必ず保健師が対応して交付する
4. 保健師、助産師や看護師の資格を有する職員が対応して交付する
5. その他（ ）

Q10：低出生体重児などの周産期異常があった場合、周産期医療機関などの入院施設から退院連絡票が送られてきますか（該当するもの一つに○）。

1. 送付されるが、医療機関によって異なる
2. ときどき送付される
3. ほとんど送付されない
4. 見たことがない

Q10_1：地域の低出生体重児の把握について、所轄保健所と連携をとっていますか。

1. はい
2. ときどき
3. いいえ

Q11：出生後早期（乳児健診以前）の育児不安の把握についてお訊ねします。

Q11_1：育児不安のスクリーニングのためにアンケートを実施していますか。

1. はい
2. いいえ

Q11_1_1：どのようなアンケート（記名式）を使用していますか（該当する主なもの一つに○）。

1. 独自に作成したアンケート（返信にご同封いただけますか）
2. 他機関で利用しているアンケートの転用（返信にご同封いただけますか）
3. 日本語版エジンバラ（EPSD）を単独で使用している
4. 日本語版エジンバラと他のアンケートとの併用（返信にご同封いただけますか）
5. その他のアンケート（ ）

Q11_1_2：アンケートの配布方法はどのようにしておられますか（該当するもの一つに○）。

1. 分娩施設と連携して、出生後間もない時期（およそ生後1カ月未満ぐらい）に母親に配布し郵送で回収、あるいは新生児訪問時や乳児健診当日に回収している
2. 乳児健診の前に郵送で送り、乳児健診当日回収している
3. 乳児健診の前に郵送で送り、乳児健診以前に郵送で回収している
4. 乳児健診の当日配布し、即日回収している
5. 新生児訪問時に配布し、即日回収している

乳児健診（3～4カ月児健診）

Q13:乳児健診における対象の把握はどのようにしておられますか(該当する主なもの一つに○)。

1. 住民基本台帳から
2. 出生通知書から
3. 別途作成した児童台帳
4. その他 ()

Q14:乳児健診の実施方法についてお教えてください(該当するもの一つに○)。

1. 集団
2. 個別委託
3. その他 ()

→ Q14_1:乳児健診を担当する医師の確保はどのようにしていますか(該当するものすべてに○)。

1. 地域医師会に一任
2. 独自に確保している
3. 医療機関や医学系大学と提携
4. 当該自治体に勤務する医師
5. その他 ()

→ Q14_2:乳児健診を担当する医師の診療科はどのように決めていますか(該当するもの一つに○)。

1. 医師会に一任している
2. 小児科医に決めている
3. 内科/小児科標榜医に決めている
4. 診療科は問わない

→ Q14_3:乳児健診担当医と他のスタッフとの連携はとっておられますか(該当する主なもの一つに○)。

1. 連携は全くなし
2. 保健師がコーディネートしている。
3. ケースカンファレンスに同席してもらう
4. その他 ()

→ Q14_4:医師(健診担当医)と保健師以外の乳児健診に従事する専門スタッフを教えてください(該当するものすべてに○)。

1. 保育士
2. 栄養士
3. 心理士
4. 精神科医師
5. 看護師
6. 助産師
7. 歯科衛生士
8. その他 ()

→ Q14_5:乳児健診内容について、該当するものを選んでください(該当するものすべてに○)。

1. 問診
2. 小児科診察
3. 集団指導
4. 個別保健相談
5. 心理相談(全員)
6. 心理相談(必要なケース)
7. 栄養相談(食育を含む)
8. 必要に応じて精神科医師の面談
9. 助産師による母乳相談
10. グループワーク
11. その他 ()

Q14_6:乳児健診の重点目標を何にしていますか。委託健診も含めてご回答ください(該当するものすべてに○)。

1. 疾病の早期発見
2. 育児不安の発見と軽減
3. 虐待の早期発見
4. 親同士の交流
5. 健康教育
6. 発達の評価
7. 栄養指導(食育を含む)
8. 予防接種指導
9. 歯科保健
10. 親子の関係性の評価
11. 父親の育児への参加

Q14_6で、とくに力を入れている取り組みがあれば教えてください(資料添付でも結構です)。

Q14_7:平成16年度の乳児健診の実施回数と1回の受診数の平均を教えてください
(集団方式の場合のみ)。

- 1) 健診の実施回数は年 () 回
- 2) 1回の平均受診数は () 人

Q14_8: 乳児健診で育児不安に関するスクリーニングをしていますか。

1. はい
2. いいえ

→ Q14_8_1:スクリーニングの方法について該当するものすべてに○を付けてください。
アンケートの白紙のサンプルを返信にご同封いただきたく存じます。

1. 独自に作成したアンケート
2. 他機関で利用しているアンケートの転用
3. 市販のツール(愛研式など)を利用している (名称: _____)
4. 日本語版エジンバラ(EPSP)を単独で使用している
5. 日本語版エジンバラと他のアンケートとの併用
6. 問診の中で聞き取っている
7. その他 ()

Q14_9: 乳児健診で親子関係に関するスクリーニングをしていますか。

1. はい
2. いいえ

→ Q14_9_1:スクリーニングの方法について該当するものすべてに○を付けてください。
アンケートの白紙のサンプルを返信にご同封いただきたく存じます。

1. 独自の育児不安のスクリーニング用アンケートの中に項目を含めている
2. 親子関係に関する独自のアンケートを作成している
3. 他機関で利用しているアンケートを転用している
4. 市販のツールを利用している(名称: _____)
5. 問診の中で聞き取っている
6. その他 ()



とくに力を入れている取り組みがあれば教えてください（資料の添付でも結構です）。

Q16_7：平成 16 年度の 1 歳 6 カ月児健診の実施回数と 1 回の受診数の平均を教えてください（集団方式の場合のみ）。

- 1) 健診の実施回数は年 () 回
- 2) 1 回の平均受診数は () 人

Q16_8：1 歳 6 カ月児健診で育児不安に関するスクリーニングをしていますか。

1. はい
2. いいえ

Q16_8_1：スクリーニング方法について該当するものすべてに○を付けてください。

アンケートの白紙のサンプルをご返信にご同封いただきたく存じます

1. 独自に作成したアンケートを使用
2. 他機関で利用しているアンケートの転用
3. 従来から使用している子どもの発達などに関するアンケートの項目を活用
4. 市販のツール（愛研式など）を利用している（名称：_____）
5. 問診の中で聞き取っている
6. その他具体的に（_____）

Q16_9：1 歳 6 カ月児健診で親子関係に関するスクリーニングをしていますか。

1. はい
2. いいえ

Q16_9_1：スクリーニングの方法について該当するものすべてに○を付けてください。

アンケートの白紙のサンプルを返信にご同封いただきたく存じます。

1. 独自の育児不安のスクリーニング用アンケートの中に項目を含めている
2. 親子関係に関する独自のアンケートを作成している
3. 他機関で利用しているアンケートを転用している
4. 市販のツールを利用している（名称：_____）
5. 従来から使用している子どもの発達などに関するアンケートの項目を活用
6. 問診の中で聞き取っている
7. その他（_____）

